

心理学に関する研究
—心理学の観点から—

信州大学教育学部
学校教育教員養成課程現代教育コース
発達・教育心理ユニット

12E3456A 信州心理

はじめに

以下に述べる注意点と日本心理学会「執筆・投稿の手びき」（以下、単に「手引き」とする）を参考する。

1 ページを 32 文字×25 行に設定しているため、1 ページあたり 800 字、原稿用紙 2 枚分に相当する。

中央大見出し

横大見出し

見出しはこのように。中央大見出し，横大見出し，横小見出しの3つのレベルがある。

横大見出し

横小見出し ○○○

横小見出し ○○○

横大見出し

横小見出し ○○○

横小見出し ○○○

編集のテクニック

図表のテクニック

本原稿では，図表そのものとキャプションをワンセットにして配置できるように書式設定している。図表とキャプションの後ろに，もう一つの「枠」が存在する。その枠の上に図表とキャプションを載せているため，図表とキャプションの位置がずれることがなくなる。本稿図 1，表 1 のキャプションの後ろにある枠をクリックし，この枠をコピー&ペーストして用いれば，本稿と同じ枠でレイアウトできる。

表 1 表はこのような形で、本文に埋め込む。

条件名	平均	S D
統制条件	65.7	5.60
実験条件	71.0	7.22

注：注が必要であれば、このような形で入れる。表は別のソフトウェアで作成し、貼り付けてもよい。

可能であれば、表はワード上で作り直すと見栄えがする。表 1 はワードで作製しており、テキスト枠を作り、その中に表を埋め込んでいる。表のプロパティにおいて、表全体の幅、表の高さの固定のチェックを外すと、列幅の調整がしやすい。

エクセルやパワーポイントから貼り付ける場合には、「形式を選択して貼り付け」から「拡張メタファイル」を選択して貼り付けると、拡大・縮小されても文字や図形がはっきりと印刷される。なお、画像はベクタ形式とラスタ形式があり、写真以外の図は、ベクタ形式で貼り付けを行うと、きれいに印刷される。「<http://ja.wikipedia.org/wiki/ベクタ形式>」を参照。

図を思い通りの場所に配置するには、アンカーの調整をする。アンカ

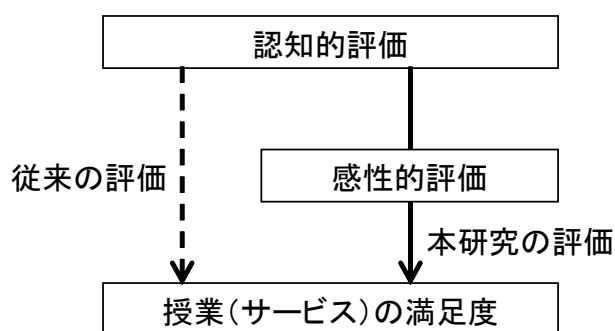


図 1 図はこのような形で、本文に埋め込む。

ーを表示するには、「ファイル」→「オプション」→「表示」から「常に画面に表示する編集記号」の中で「アンカー記号」をチェックする。アンカーは図と段落を紐付けていて、図に紐付けられた段落のあるページに移動する。アンカーを動かすことで、図の配置ページを動かすことができる。

引用文献リストの2文字下げ

該当部分を選択後、右クリック→「段落」を選択し、「インデントと行間幅」タブの2番目「最初の行」を「ぶら下げ」に設定し、「幅」を「2文字」にする。このように設定すると、自動的に2行目が2文字下げになる。

左揃えと両端揃え

本文と引用文献リストの書式は「両端揃え」に統一する。本文の右側がギザギザしている場合には、書式が「左揃え」になっている可能性が高い。設定方法は、該当部分を選択後、右クリック→「段落」を選択し、「インデントと行間幅」タブのいちばん上「配置」から「両端揃え」を選択する。

余計なスペースの削り方

本文中で、余計なスペースが挿入されている例が散見される。余計なスペースを見つけるには、編集記号を表示するとよい。「ファイル」→「オプション」→「表示」から「常に画面に表示する編集記号」の中で「すべての編集記号を表示する」をチェックする。半角スペースには「・」が、全角スペースには「□」が表示される。それを参考に、余計なスペースを削る。

引用文献（例）

- 秋田喜代美（2001）. 読解過程における情動と動機 大村彰道・秋田喜代美・久野雅樹(編) 文章理解の心理学—認知, 発達, 教育の広がりの中で 北大路書房 pp.80-89.
- 中條和光・納富一宏・石田敏郎（1993）. 横スクロール表示の読み速度に及ぼす読みの効果心理学研究, *64*, 360-368.
- 郡司隆男・坂本勉（1999）. 言語学の方法 岩波書店.
- Kintsch, W. (1998). *Comprehension: A paradigm for cognition*. Cambridge University Press.
- Petty, R. E., & Cacioppo, J. T. (1986). The elaboration likelihood model of persuasion. *Advances in Experimental Social Psychology*, *19*, 123-205.